

学年	教科	単元名	児童	場所	指導者
2年	国語	「お手紙」	2年1組 18名	教室	増田 展明

## 1 単元について

### 本単元で育てたい資質・能力

#### 【知識・技能】

○文の中における主語と述語の関係に気付くこと。また、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

#### 【思考力・判断力・表現力等】

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。また、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

#### 【学びに向かう力、人間性等】

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで音読し、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 単元・題材について

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「C読むこと」の指導事項「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」及び、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ言葉の特徴やきまり「(カ) 文の中における主語と述語の関係に注意すること。」を取り上げて指導する。

本単元の教材文「お手紙」は、二人の登場人物の会話と地の文によって、物語が展開されていく。友達の不幸せをいっしょに悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。特別な事件が起こるわけでもなく、四日遅れの内容の分かっている「お手紙」を仲よく待つ二人。友達同士の心の交流は読み手までも幸せな気持ちにさせる教材である。児童には共感をもって読み取らせたい。

### 児童の実態

児童は、これまでに「ふきのとう」や「スイミー」の学習で、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することや場面の様子を想像しながら登場人物になりきって音読し、想像を広げながら作品を味わう学習を経験している。

本学級の児童は、昨年度実施したTK式観点別到達度学力検査において各領域で全国平均を超え、関心・意欲・態度も高い傾向が見られた。しかし、音読に関しては画一的な表現になってしまったり、自分の思いが伝わらない音読の仕方になってしまったりする児童も多い。

本単元では、目指す学び合いの姿を「場面の様子や登場人物の気持ちと自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えを発表し合う姿」と位置付け、物語の場面の様子を自分の経験と結び付けながら、友達と関わり合うことを通して、自分の思いや考えを発表する力を養いたい。

### 単元の目標

物語の特徴を生かしながらペープサート劇で音読する活動を通して場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像する能力を育てるとともに、文章を読んで感じたことや分かったことを伝え合おうとする態度を養う。

### 単元の指導について

本単元では、「知新小2年生発！アーノルド＝ローベル劇団！」と題し、想像を広げながら物語を楽しんで音読するという単元を貫く言語活動を位置付ける。語のまとまりに気を付けて読むことに加えて役割読みやペープサートによる動作化を取り入れながら、「どこで」「誰に向かって」「どのような状況で」言っているのか考えさせ、そこから「声の大きさ」「せりふの速さ」などの工夫をさせたい。また、音読しながら物語の場面の様子を考えたり、登場人物の行動や気持ちを想像させたりする。単元の学習終了後には、1年生への発表会を設けることで学習への意欲を高めていきたい。

### 単元の評価規準

【関心・意欲・態度】	【読む能力】	【言語についての知識・理解・技能】
①物語の特徴を生かして、ペープサート劇に表そうとしている。	①人物の様子や気持ちが表れるように音読している。 ②時、場所、人物、出来事や、場面ごとの人物の様子を読み取り、人物の気持ちを想像している。 ③友達と感想が同じだったり、違ったりしていることに気付いて感想を深めている。	①主語と述語の関係を理解している。

### 子どもの深い学びの姿

場面の様子や登場人物の気持ちと自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えを発表し合う姿。

次	時	○おもな学習活動 ・ 具体的内容 <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> </span> まとめ	指導上の留意点 教師の評価規準（評価方法） ◇到達が不十分な児童への指導の手立て
一次 つかむ・見通す	①	<p>※読み聞かせの会によるペープサート劇を観覧し、ペープサート劇の具体を知る。</p> <p>○学習の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物</li> <li>・場面の様子</li> <li>・会話とそれ以外の文（地の文）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>アーノルド＝ローベル劇団になって、ペープサートでローベルの物語を発表しよう</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に発表会を見せることを知り、どのようなことに気を付けながら学習を進めたらよいか考える。</li> </ul>	<p>【<b>関心・意欲・態度①</b>】 学習のめあてを確かめ、進んでペープサート劇に表そうとしている。（発言・観察）</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>思考を活性化させるアクティブ化ポイント①</b> 実際のペープサート劇を読み聞かせの会に見せてもらうことで単元のゴールイメージを具体的にもたせる。また、発表の対象を1年生に設定することで意欲を高める。</p> </div> <p>◇単元の学習計画を提示し、見通しをもたせる。</p>
	二次 追究する	②	<p>○だれの会話か考えながら読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を会話文とそれ以外の文（地の文）に分けて読み、話の流れを確認する。</li> <li>・会話文はがまくんとかえるくんのどちらが話しているのかも分ける。</li> <li>・第三次で使用する教材文についても同様に会話とそれ以外の文（地の文）に分ける。</li> </ul>
	③	<p>○始めの場面から、2の場面までの様子を想像して、音読の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめの場面から2の場面を読み、話の大体をまとめる。</li> <li>・場面の様子</li> <li>・登場人物の気持ち</li> <li>・場面の様子と登場人物の気持ちを考え、読み方の工夫を考える。</li> </ul> <p>※二次を通してがまくんの気持ちを顔カードで表し、教室の単元計画に掲示する。</p>	<p>【<b>読む能力①</b>】 人物の様子や気持ちが表れるように音読している。（発言・観察）</p> <p>◇挿絵を掲示し、がまくんの表情に着目させ、会話文と合わせて気持ちを考えさせる。</p>
	④	<p>○3の場面の様子を想像して、音読の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子の想像を膨らませながら読み、会話文の読み方を考える。</li> <li>・登場人物の気持ちを想像し、それに合う読み方を決定する。</li> </ul>	<p>【<b>読む能力①</b>】 人物の様子や気持ちが表れるように音読している。（発言・観察）</p> <p>◇挿絵を掲示し、二人の表情に着目させるとともに、前時で学習した場面を想起させ、場面の様子を理解させる。</p>

二次 追究する	⑤ (本時)	<p>○クライマックス場面の前半の様子を想像して、音読の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子の想像を膨らませながら、会話の読み方を考え交流する。</li> <li>・登場人物の気持ちを想像し、それに合う読み方を決定する。</li> </ul>	<p>【読む能力①】</p> <p>出来事や人物の様子から気持ちを具体的に想像して音読の仕方を工夫している。(発言・観察)</p>
			<p><b>思考を活性化させるアクティブ化ポイント②</b></p> <p>かえるくんの気持ちを顔カードで考え表すことで、気持ちを想像しやすくし、音読に生かす。(二次を通しての取組)</p>
	⑥	<p>○クライマックス場面の後半の二人の様子を想像して、音読の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子の想像を膨らませながら、会話の読み方を考え交流する。</li> <li>・登場人物の気持ちを想像し、それに合う読み方を決定する。</li> </ul>	<p>【読む能力①】</p> <p>出来事や人物の様子から気持ちを具体的に想像して音読の仕方を工夫している。(発言・観察)</p> <p>◇挿絵を掲示し二人の表情に着目させるとともに、「しあわせ」と「ふしあわせ」の言葉を対比させて場面の様子を想像させる。</p>
三次 まとめる・広げる	⑦	<p>○「ふたりはともだち」の物語の音読の工夫を考えて、交流し、読み方を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくん、かえるくん、ナレーター(地の文)の役割を相談し、文の読み方を考える。</li> <li>・グループで考えた読み方を交流し合い、よりよい音読の仕方を考える。</li> </ul>	<p>【読む能力③】</p> <p>場面の様子や人物の動きを想像して音読に生かし、友達と同じだったり違ったりすることに気付いている。(発言・観察)</p> <p>◇二次の学習と同じように、その場面の登場人物の表情を顔カードで想像させる。</p>
	⑧ ⑨	<p>○「ふたりはともだち」の物語の音読の工夫を考えて、交流し、読み方を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ物語のグループで音読の仕方を話し合う。</li> <li>・グループの発表を見合い、よりよい音読の仕方を考える。</li> <li>・各グループの発表の後に、感想を伝え合う。</li> <li>・単元の学習を振り返り、学んだことを確かめる。</li> </ul>	<p>【読む能力①】</p> <p>場面の様子や人物の動きを想像し、適切に音読に生かしている。(発言・観察)</p> <p>◇二次の学習と同じように、その場面の登場人物の表情を顔カードで想像させる。</p>
	⑩	<p>○「アーノルド＝ローベル劇団」の発表会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いのグループの発表を聞き合い、感想を交流する。</li> <li>・交流した感想から、改善点があれば改善し、練習する。</li> <li>・1年生への発表会は後日、朝の学習時間を活用して行う。</li> </ul>	<p>【読む能力①】</p> <p>場面の様子や人物の動きを想像し、適切に音読に生かしている。(発言・観察)</p> <p>◇発表会の観点を示し、その観点到に沿って感想を伝えられるように、感想の例を示す。</p>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

出来事や人物の様子から気持ちを具体的に想像して音読の仕方を工夫している。

#### (2) 本時の展開【10時間扱い 5/10時間目】

#### \*一単位時間レベルBー②(対話重視)

	子どもの思考の流れ	思考	□教師の働きかけ ◆教師の評価(評価方法) *思考を活性化させるアクティブポイント
導入 7分	1 クライマックス部分の前半(P14～16)を音読する。 2 学習課題を確認する。	全体	□学習課題を板書する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(ペープサート劇を開くために) 音読をして、がまくんの気持ちをそうぞうしよう。</p> </div>			
展開 28分	3 本時の見通しをもつ。 ・それぞれの会話の読み方を決める。 ・登場人物の行動 ・場面の様子 ・どのようにして会話文の読み方を決めるのか確かめる。(学習方法の確認)		□会話の読み方を決める方法を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【会話文の読み方を決める方法】</b></p> <p>① がまくんやかえるくんの行動や場面の様子をもとに気持ちを考える。            ② 気持ちは「かおカード(仮)」で表す。            ③ 教科書に音読の仕方を書き込む。ペープサートも動かしながら考える。</p> </div>			
・考えた読み方で音読の練習をする。			
4 会話文の読み方を考える。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外見てるの。」            「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」            「でも、来やしないよ。」            「きっと来るよ。」            「だって、ぼくが、きみに お手紙出したんだもの。」</p> </div>			
5 「きみが。」「お手紙になんて書いたの。」の読み方を考える。			
・友達の発表(考えの見通し)を聞き、どのような読み方をするか考える。 ・驚いている。			
□二人の会話において、次第に語調が強まることを意識させる。 ◆登場人物の心情を具体的に想像して読んでいる。 (発言・観察・記述) □「きみが。」という言葉がなぜ途中で途切れているのかを問う。 □数名を指名し、どのような読み方ができそうかを発表させる。			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しうれしい。</li> <li>・信じられない気持ち など</li> </ul> <p>・「きみが。」の後に続く言葉がどのような言葉か考えて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な読み方について話し合う。</li> <li>・ホワイトボードを活用し、考えられる気持ちに合った音読をする。</li> <li>・友達とどの読み方がよいか話し合う。</li> <li>・自分ならどう読むか決める。</li> <li>・ペープサートを動かしながら音読する。</li> </ul> <p>・どのような読み方をすることに決めたのか全体で発表する。</p> <p>6 「ああ。」と「とてもいいお手紙だ。」の読み方を考える。</p> <p>7 本時のまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□なぜ、そう読もうと思ったのか問い、児童の経験や考えのベースとなっている体験などを引き出す。</li> <li>□かえるくんからの手紙を提示し、手紙をもらえることがわかったという場面の様子を十分に理解させる。</li> <li>□その時点での考えを交流し、考えをまとめたり広げたりするよう声かけする。</li> </ul> <p><b>*「きみが。」の後に続く言葉を考えさせることで、このときがまくんの心の中を豊かに想像させる。ホワイトボードに互いの考えを書き、グループで対話することで、考えを広げる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□どうしてそのように読むことに決めたのかを問う。</li> <li>□挿絵と文に注目させ、しあわせな気持ちであることを確認させる。</li> <li>□音読を通して、登場人物の気持ちを考えたことに着目し、まとめを考えさせる。</li> </ul>
<p>ふしあわせな気持ちだったがまくんは、かえるくんからのお手紙のことを知って、しあわせな気持ちになった。</p>		
<p>終末 10分</p>	<p>8 決定した読み方を用いて音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の冒頭での音読と比較して、どのように変わったか発表し合う。</li> </ul> <p>9 本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□話し合いを通して、考えを広げたり深めたりできたか。</li> </ul>

### (3) 本時の評価

<p>◇評価規準の具体 (評価方法～発言, 観察, 記述)</p> <p><b>【科学的な思考・表現】</b></p> <p><b>十分に満足できる (A)</b> : 登場人物の心情を想像して音読の仕方を工夫し効果的に音読に生かしている。</p> <p><b>おおむね満足できる (B)</b> : 登場人物の心情を想像して音読の仕方を工夫している。</p> <p><b>努力を要する児童への指導</b> : 挿絵の人物の表情や顔カードから想像した様子を音読に生かすように助言する。</p>
--